



多品目に使えて複合経営には最適。  
しっかり効くから無駄な散布も省けたよ。

茨城県東茨城郡 飯村 節夫さん(63歳)



ほうれんそうを5ha、かぼちゃを20a、加工用トマトを1haのほか、水稲、こまつな、たまねぎなど9品目を延べ9haにわたって作付されている**飯村さん**。地元のJA水戸で加工用トマト部会長を務める飯村さんは、出荷先である大手トマトジュースメーカーから一目置かれる生産者なのだとか。

なんと、同メーカーの契約農家のなかで、**3年連続日本一の反収を記録**しているとのこと。

「加工用トマトをつくり始めて6年になるけど、最初の3年はまったくモノにならなくてね。土壤が肥沃すぎたせいで、葉っぱばかり繁茂して実が成らなかったんだ」。

失敗の原因を知ってからは、施肥を極力抑えた栽培方法に切り替え、その年にいきなり反収日本一。

飯村さんは謙遜するように「施肥だけじゃなく、殺菌剤も変えたんだ。その効果も大きいんじゃないかな」。

例年、この地域のトマトづくりでは疫病が問題になっており、収量にも影響を与えていたといいます。

そこで、JA水戸からの薦めによりアミスターオプティフロアブル(以下、アミスターオプティ)を導入されました。

「疫病は出してしまったらおしまいだから、いちばん出やすい梅雨時にアミスターオプティを10aあたり100Lまいて予防を徹底している。さらに、その1カ月後に仕上げで300Lもまけば、疫病を見ることはまずないね」。

さらに、昨年作付を始めたかぼちゃにも、今年からアミスターオプティを使用。

「かぼちゃの大敵といえぼどんこ病とべと病。去年はこの対策に6回は殺菌剤をまいたんだけど、アミスターオプティは**しっかり効いてムダな散布が省けるから3回で済むようになったよ**」。

加工用トマトとかぼちゃにおいて、確かな効果を実感された飯村さん。

「**いろんな作物に使えて、しかも複数の病気を同時に抑えてくれる。複合経営農家には最適だね!**」と、笑顔で締めくくってくれました。

 **アミスター オプティ**<sup>®</sup>  
フロアブル

syngenta<sup>®</sup>

シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワー-X 21階  
<http://www.syngenta.co.jp>

農業をご使用の際は、ご購入先、または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標 TMはシンジェンタ社の商標

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●薬剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器、空袋等は圃場などに放置せず適切に処理してください。

※2011年12月28日現在の情報です。

TM